



こんかい
今回はラオデキアの街の人たちのお話です。

むかし、ラオデキアという街がありました。

ラオデキアの街はとてもお金もちでした。銀行にはお金がたくさんありましたし、羊の毛はとても高くうれました。ラオデキアの目薬は良くきくのでみんなが高いお金をだして買いにきました。

だからラオデキアの人たちはお金持ちで、大地震がきて街がこわれてしまっても困りませんでした。お金があったからすぐに街は元通りになりました。だからラオデキアの人たちは「私たちはしあわせだ。お金もちだし、りっぱな服をきて、何でも知っている」とおもっていました。

でも神様はこれを良いこととはおもいませんでした。なぜなら、ラオデキアの人たちは神様にお祈りしなくなっていたからです。

神様はラオデキアの人たちをしかったです。



「あなたたちはお金があるから、りっぱな服をきている。何でも知っているとおもっているが、じつはまずしくて、はだかでも見えていない」

お金があればしあわせになれるというかんがえかたは、神様から私たちを遠ざけ、お祈りすることを忘れてしまうのです。私たちはいつも神様に祈り、かんしゃしていることが大切なのです。

その後、ラオデキアの人たちは、神様の言いつけを聞いて幸せに暮らしたようです。

「わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。

だから熱心に努めよ、悔い改めよ」

ヨハネの黙示録 第三章十九節